

Woodist Report

2012 年秋季 第13号

発行 平成24年10月15日

ウッドィストのたより

@woodist
www.woodist.co.jp



小規模特別養護老人ホーム 寿康園様

高齢者福祉施設の木造化。
ご利用者の平均年齢 85 歳。がっちりとした木造平屋、瓦葺きの家で育った人びと。
木の香りと温もりにこころは落ち着く。
健康管理と自立への支援をサービスの柱とする施設。ご家族の満足がひろがる。
とりまく里山と家いえにしっかりと溶け込んでいく。

山佐木材株式会社



平成 24 年 4 月 1 日 オープン

社会福祉法人 寿康会 理事長 前田 義博様

小規模特別養護老人ホーム **寿康園** (29 ユニット全室個室)

寿康園グループホーム **飯山** (18 ユニット全室個室)

事業所内託児所 **こぼと** (職員福利厚生施設)

設 計：一級建築士事務所 **みのだ設計様**

総合施工：第一建設様

デ ー タ：木造 2 階建て 延べ床面積 2274.68㎡

大断面集成材材を利用した木造軸組構法で、ゆったりとした開放的な空間が実現されています。

3つの中庭を設けて、室内に自然の光と風を取り入れることにより、どの室にいても入居者様に季節の移ろいを感じていただける工夫がされています。

同時に、これらの中庭を通じて、入居者様、職員が、個室や共有スペース間、上下階間においても、お互いに気配を感じることができる構成となっています。
 (山下事務長様:表紙の言葉も)



特別養護老人ホームは、建築基準法 27 条による特殊建築物であり、建築基準法施行令 19 条により児童福祉施設等に含まれます。2 階建て以上の場合には耐火建築物、1 階建ての場合には準耐火建築物が基本となります。必要となる耐火性能は建築基準法よりも「特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準」に厳しい規定があります。ただし、安全性の確保の措置をした上で、都道府県知事等が認めた 1 階建ての場合には、耐火・準耐火建築物以外の建築物として木造とすることができます。

(一般社団法人 木を活かす建築推進協議会発行『木造建築のすすめ』より抜粋)



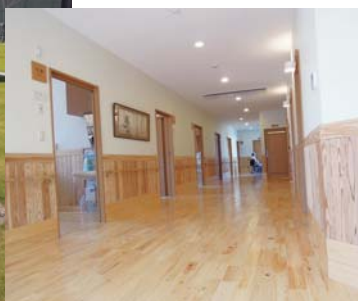
平成 24 年 4 月 1 日 オープン

社会福祉法人 以和貴会 理事長 西丸 重晴様

住宅型有料老人ホーム 年輪
(24 ユニット全室個室)

設 計：(株)福満設計様
総合施工：福元昭建設(株)様
デ ー タ：木造 1 階建て 延べ床面積 940㎡

このホームは 2011 年度「かごしま木づかい推進事業（木造公共施設等整備）」による補助事業に採用され、建設費の 1/2 が補助されました。木材をふんだんに使用し、木の良さを最大限に発揮した施設です。また、建設費を安価に済まされた分、入居者様の利用料も低額とすることができました。なお、付設の約 450 坪の庭園には、樹木や草花を植え、四阿を配置し散策路を設け、入居者の安らぎの場としました。
(西丸理事長様)



木造軸組構造の採用により、県産材（国産材）木材が積極的に活用することが可能になります。その地域の森林保全をはじめとして、林業や地場産業の活性化にもつながっていきます。また、内装材、外装材に地元の木材を有効に活用することで、地域のご利用者を受け入れる高齢者福祉施設にふさわしいデザインを実現することができるのではないのでしょうか。「年輪」様におかれては、屋内での木造の現しが可能な準耐火建築物とすることで、梁背 600mm の大きな登梁と大黒柱（どちらも県産スギ集成材）を印象深いデザインとなっています。

山佐木材では、隣接する協同組合きもつき木材高次加工センターと連携して工場から排出される皮屑、鉋屑、端材を木質燃料としてボイラに供給して発生する蒸気で、木材を乾燥させています。

この時熱源から排出される熱から、木質生チップを乾燥させ、燃料用チップを製造しています。

近年の石油価格の高騰は、企業経営に少なからず影響を与えています。

石油から木質バイオマスエネルギーへの転換は、初期投資がかかるものの、長期的視点で考えた場合は、経営的にプラスが出てくるケースも多くなってきていると感じられます。

数年前に実施した弊社のバイオマスへの転換事例から、近隣に位置し、大量に重油等の化石燃料を従来使用してきた方々が、バイオマスボイラに転換し、弊社と連携して、バイオマス燃料を活用しています。

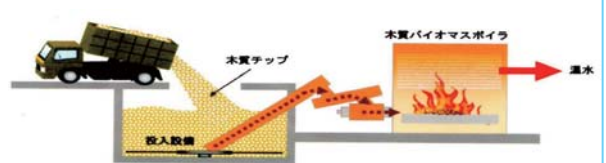
肝付町内 T 養鰻場様のバイオマスボイラー



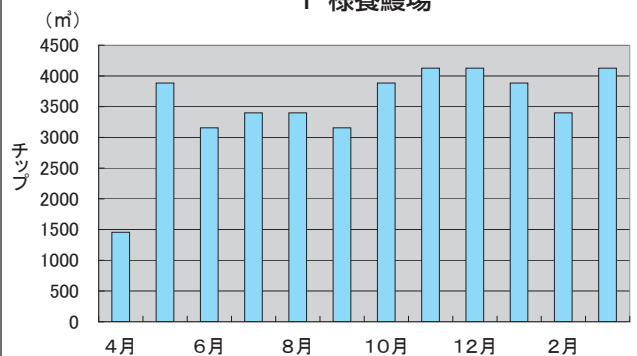
鹿屋市内 Y 温泉施設様のバイオマスボイラー



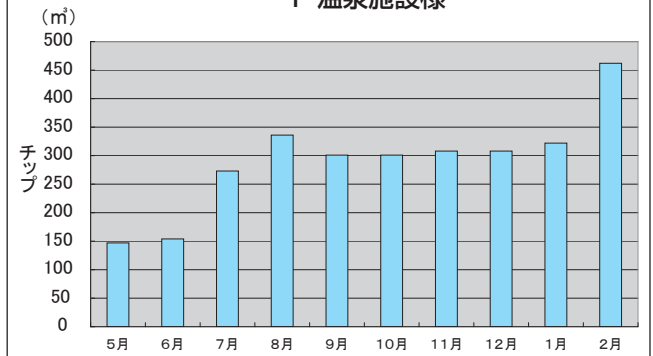
木質チップ燃料を自動供給装置の付いた燃料投入設備から搬送装置によってボイラの燃焼炉に送り、そこで自動制御装置により常に最適な燃料と空気のバランスで燃焼が行われ、この燃焼エネルギーを温수에転換して供給するシステムです。基本的には 24 時間無人運転が可能となっており、日常的な人手による管理は①チップ量の確認と②燃焼灰の処理です。



T 様養鰻場



Y 温泉施設様



昨年の福島原発事故以来、石油高騰と相まって自然エネルギーへの転換への機運がさらに高まっています。

その中で、環境負荷がすくない自然エネルギーのひとつとして、またバイオマスの利用に関する技術開発、需要拡大を図っていく必要があります。

数年来、バイオマスを利用している弊社は、今後ともバイオマス燃料の安定的な供給体制ができるように取り組んで参りたいと思います。

集成材・木造建築に関するお問い合わせは…

Woodist® 山佐木材株式会社

〒 893-1206 鹿児島県肝付郡肝付町前田 972 番地

TEL0994-31-4141 FAX0994-31-4142

<http://www.woodist.co.jp/>